

日本医科大学(前期) 英語

2025年 2月 1日実施

[I]

問 1 [1] argued [2] reject [3] accompanied [4] analyzing [5] becomes
[6] arising

問 2 (ア)→have, (カ)→die

問 3 (運動, 脳トレ, 厳格な食事管理, ビタミン剤やサプリメントの常用などにより,) 可能な限り死を遅らせるために必死の努力をしようとするアメリカ人の考え方。

問 4 (解答例 1) I think, by using an example of stroke, the author wants us to realize that though medicine has developed and our life expectancy has been prolonged, because of the fact that we have longer life, we will even more highly likely suffer from disability resulting from the complication of chronic diseases in the future, and that attaining a longer life is not always a good thing to pursue.

(解答例 2) The author states that although the number of people who died from stroke decreased between 2000 and 2010, the percentage of people who recover from stroke but have lingering effects remains high and will continue to rise in the years to come. This may indicate that despite the recent increase in life expectancy, healthy life expectancy is not increasing, which may lead to a decline in our quality of life.

(解答例 3) The author wants to show that although the number of deaths from stroke has been declining, many people who survive strokes suffer from paralysis, speech impairment, and other problems, leading to their lower quality of life.

問 5 記号 : (う)

理由 : 第 16 段落第 6~7 文に, 患者が治療を自己決定することが難しい一例として, 延命治療を望まない患者でも抗生物質を拒否するのは難しいことが述べられているから。

[第 14 段落第 8 文に, 特に延命治療にかかわる場合において, 医師の治療を拒否するためにはもっともな理由を挙げるのが求められるのが一般的であり, 家族からの圧力も相まって, 拒否できないことがほとんどであるから。]

記号 : (か)

理由 : 第 9 段落第 2 文に, 有病期間の短縮とは「長生きをした末に, 何の痛みや身体の衰えもなくある日突然死ぬ」こと, すなわち健康寿命の伸長に関する考えであると定義されているから。

問 6 c 問 7 a, c 問 8 a, c 問 9 c 問 10 d

問 11 a, d

[解説]

- 問 1 ①: 空所後ろに接続詞 **that** が続いていることから、「～と議論（主張）する」**argue** の現在完了形より、**argued** とする。
- ②: 筆者は、問 3 でも問われている“**American immortal**”という考え方に対して懐疑的であり、**reject**「～を拒絶する」が適切である。語形は現在形でそのままよい。
- ③: 「～が（付随して、同時に）起こる」という意味の **be accompanied by** ～ という表現になるのが適切であり、過去分詞 **accompanied** とする。
- ④: 研究者が「～を分析して」という分詞構文になるのが適切であり、**analyzing** と現在分詞にする。
- ⑤: 空所に続く **of concern** は、「懸念される」という意味の形容詞相当語句。したがって補語をとれる動詞 **become** が適切だが、主語 **The situation** に合わせて、3 単現 **s** を忘れずに。
- ⑥: 「～から生じる公共的な問題」という能動の意味を作りたいので、現在分詞 **arising** とする。
- 問 2 (ア) 将来の一定の時点で完了していることを述べていることから、未来完了時制が適切であり、**will have pursued** と直す。
- (カ) 将来の事柄だが、時を表す副詞節内なので、現在形 **After I die** とする。
- 問 3 **American immortal** という考え方については、第 5 段落第 2 文 **Americans seem to be** ～ という文で述べられており、可能な限り長生きしたいという目標に取りつかれ、目標を達成するために様々なことに挑戦するアメリカ人の考え方を指している。この内容を日本語でまとめればよい。「運動、脳トレ、…」の具体例を織り込むかどうかは、解答欄の長さに依存する。
- 問 4 第 12 段落 1 文に「死は通常、慢性疾患の合併症に引き起こされる」とあり、慢性疾患の一例として、**stroke**「脳卒中」が挙げられている。答案を作成する際には、脳卒中による死は減少しているものの、脳卒中後に麻痺や言語障害などの後遺症を抱えて生きている人の数が増えることが見込まれている点を踏まえること。また、長生きを追求することが必ずしもよいことではないといった筆者の考えを読者に示したいとする意図があることを踏まえること。
- (解答例 1) 「脳卒中の例を使うことで、著者が私たちに伝えようとしているのは、医学が進歩し、寿命が延びたものの、長生きすることによって今後ますます慢性疾患の合併症による障害を患う可能性が高くなるということと、長生きを追い求めることが必ずしも良いことではないという点を認識してほしいということだと私は考える」
- (解答例 2) 「著者は、2000 年から 2010 年の間に脳卒中で亡くなる人の数は減少したものの、脳卒中から回復したものの後遺症が残る人の割合は高いままであり、今後もその割合は増加し続けるだろうと述べている。これは、最近の寿命の延びにもかかわらず、健康寿

命が増加していない可能性があり、それが私たちの生活の質の低下につながるかもしれないことを示唆している」

(解答例 3) 「著者は、脳卒中による死亡者数は減少しているものの、脳卒中を生き延びた多くの人々が麻痺や言語障害などの問題に苦しんでおり、その結果、生活の質が低下していることを示したいのだと思う」

問 5 上記参照。

- 問 6 a : 第 4 段落第 5 文の内容に矛盾する。
 b : 第 4 段落第 6 文の内容に矛盾する。
 c : 第 15 段落全体の論旨に合致する。
 d : そのような記述は本文中に存在しない。

- 問 7 a : 第 2 段落第 4～5 文の内容に矛盾する。
 b : そのような記述は本文中に存在しない。
 c : 第 2 段落全体の論旨に合致する。
 d : 第 21 段落第 2 文の内容に矛盾する。

- 問 8 a : 第 10 段落第 6 文の内容に合致する。
 b : 第 10 段落第 6 文の内容に矛盾する。
 c : 第 10 段落第 6 文の内容に合致する。当該文には “had a functional limitation” としか書かれていないが、直前の第 5 文から “the loss of functional mobility” の言い換えであることが分かるので、選択肢の “difficulties with normal movement” もパラフレーズの範疇に入ると考えることができる。
 d : 80 歳以上の高齢男性の「母数」はここでは議論されていない。

- 問 9 a : 筆者は 75 歳より長生きしようというつもりがないのだから、life-threatening diseases 「生命を脅かす病」に対して例外的に治療を受け入れる、というのは明らかにおかしい。
 b : 第 17 段落第 1 文に、even if I am conscious but not mentally competent 「意識はあるが知的能力がない場合」の意思表示は既になされていると述べられているが、選択肢は even if he is unconscious 「意識がない場合」のことを述べており、合致しない。
 c : 第 15 段落第 5 文以降の内容に合致する。
 d : 第 16 段落全体の内容に矛盾する。

- 問 10 a : 第 13 段落第 2 文の内容に合致する。
 b : 第 6 段落全体の内容に合致する。
 c : 第 13 段落第 5 文の内容に合致する。
 d : 第 12 段落第 4 文の内容に矛盾する。

- 問 11 a : 第 18 段落第 3～4 文の内容に合致する。
 b : そのような記述は本文中に存在しない。
 c : 第 21 段落第 3 文の内容に矛盾する。
 d : 第 20 段落第 2～3 文の内容に合致する。

[II]

(解答例 1)

The author is concerned about the current situation in which healthy life expectancy is not increasing despite the increase in average life expectancy, and takes the position that it is not necessarily desirable to simply live longer. He has set his own life expectancy at 75 years and has made up his mind that he will not forcibly prolong his life after that age, even if he suffers from a life-threatening disease.

I agree with the position that simply living longer does not define the value of life. The value of life should not be determined by how long you live, but by what you have accomplished in your lifetime or how enjoyable and energetic your life has been. On the other hand, I somewhat disagree with the author's rejection of all medical care, including measures against infectious diseases such as antibiotics or flu shots. The author says that only young people who have yet to live a complete life should receive such services, but since infectious diseases are contagious from person to person, their prevention should be promoted by society as a whole. I do not wish to prolong my own life by forcing myself to suffer from terminal cancer, for example, but from the viewpoint of public health, I believe that I should receive necessary medical care.

(219 words)

著者は、平均寿命が延びているにもかかわらず健康寿命が延びていないことを懸念し、単に長生きすることが必ずしも必要ではないという立場を取っている。著者は自身の寿命を 75 歳と設定し、その年齢を過ぎてからは、たとえ生命が脅かされる病気になっても強いて延命措置を受けないと決めている。

私は、単に長生きすることが人生の質を決定しないという著者の立場に同意する。人生の質は寿命の長さではなく、人生で何を成し遂げたかとか、自身の人生が楽しく活発であったかにより決定されるべきである。一方で、抗生物質やインフルエンザ予防接種のような感染症に対する処置を包含するすべての医療行為を拒絶する著者の考えには幾分反対である。著者は、そのような医療処置は人生を十分に生きていない幼い子供だけが受けるべきであると述べているが、感染症は人から人へ伝染するため、社会全体で予防が促進されるべきものである。私自身が、例えば末期がんになっても命を長らえ苦しみ続けることは望まないが、公衆衛生の見地から、必要な（予防接種のような）医療は受けるべきであると信じる。

(解答例 2)

The author offers the option of seeking only palliative measures and not wishing to prolong life, because after the age of 75, a person's physical and mental functions deteriorate. I do not fully agree with the author's opinion. Certainly, the pains caused by the decline of physical and mental functions is understandable. However, the decline of these functions

varies greatly from person to person, and a person's emotional state can change greatly depending on his or her situation at the time. Although the author does not impose his opinion on the subject, I believe it is not desirable to set a uniform age for patients suffering from diseases.

(108 words)

著者は、緩和ケアのみを受け入れ、延命措置を望まないという人生の選択肢を提示しているが、これは年齢 75 歳を過ぎると人の身体的および精神的機能が衰退するためである。私は著者の意見に完全には同意しない。確かに、身体的および精神的機能の低下による苦勞は理解できるが、機能の低下の度合いは個人差があり、個人の心的状況はその時の本人の状況により大きく影響されるからである。著者はこの件について持論を押し付けてはいないが、種々の病に苦しむ患者に対して統一した寿命を設定することは好ましくないと信じる。

(解答例 3)

I totally agree with the author's opinion written in the text [I]. I am going to explain the reason I think this way with examples to support my idea.

First, his main idea is, to sum up, that as we age, we will face the situation that forces us to lead a tougher life than we do now. And this is ironically because we can and will be able to enjoy more advanced medicine than before, meaning we may escape from the diseases that used to make our life shorter, but we will often have to live with the aftereffects of those illnesses. It follows that we will have to live with difficulty for the rest of our life, which, I think, many of us is not happy about.

Second, his idea do not force anyone of us to abide. In the text [I], he shows his idea clearly that this kind of opinion does not apply to those who have different ideas from his. That is to say, if a person wants to live as long as he or she can, using life-prolonging device in some cases, it is all up to the person who live his/her own life. Therefore, he does not impair the dignity of anyone's life.

Third, he himself accepts the possibility of his idea changing. We can see this from the last paragraph of this passage that he retains the right to change his mind.

As I have mentioned above, his idea is sound and logical, and it does not invade the free will of others, and even himself. Thus, I fully agree with his idea.

(275 words)

私はテキスト[I]に書かれている著者の意見に全面的に同意する。なぜこのように考えるかを、自身の意見を支持する例を使い説明することとする。

第一に、著者の主たる意見を要約すれば、人は年齢を重ねるごとに現状よりも対処に苦勞する状況に直面するし、これは皮肉なことに過去よりも進んだ医療を享受することができるのが理由であるということである。つまり、かつては我々の命を縮めたような病気から逃れることはで

きるかもしれないが、それらの後遺症に煩わされるようになることを意味する。当然残りの人生に困難が伴うこととなり、そのような人生を過ごすことは我々の多くが嬉しくないと思うだろう。

第二に、著者は自分の意見に従うように強制していないことを挙げる。テキスト[I]で、このような考えは自分と違う意見をもつ人には当てはまらないという考えを明示している。言い換えれば、もし人が場合によっては延命装置などを使用してできる限り長く生きたいと望むなら、それは自身の人生を生きる本人の意思次第なのである。

第三に、彼自身も自分の今の考えを翻す可能性を受け入れている。我々はこれを、著者は自分の考えを変更する権利を保持するという最終段落の一文から理解できる。

上記した通り、著者の意見は健全かつ論理性をもつものであり、自身を含め他者の自由意思を侵害するものではない。それゆえ、私は著者の意見に全面的に同意する。

(解答例 4)

I completely disagree with the author's view. The author argues that extending life is a loss, and that it negatively impacts the way we relate to those close to us. While I can understand the author's insight into how difficult an existence living with poor health and merely prolonging one's life can be, I believe that death is not something that belongs solely to the individual. In other words, death is not just something that pertains to the person, but also affects those who love them. The grief experienced by those left behind after losing a loved one is immense. Since the author assumes that death belongs only to the individual, I cannot agree with the author.

(117 words)

私は著者の意見に全く同意しない。著者は、寿命を延ばすことを損失と考え、近親者に対して負の影響を与えると論じている。病を患い命を長らえるだけの人生がどれほど困難な存在たり得るかについての著者の洞察には理解を示すが、死は個人にのみ帰属するものではないと私は考える。換言すれば、死とは個人に帰属するだけの存在ではなく、その個人を愛する者に影響するものなのである。愛する者を失ってから、残された人たちが経験する悲しみはとても大きい。著者は死を個人にのみ帰属する存在ととらえているため、私は著者の意見には同意できない。

[解説]

大問 I での筆者の意見を踏まえ、それにどの程度賛同するかを論述するもの。指示に “Include a summary of the author's opinion” とあることから、まずは本文から読み取れる筆者のスタンスを簡潔に要約する必要があることに注意する。

〔Ⅲ〕

- | | | | | | |
|-----|-------|-------|---------|-------|-------|
| 問 1 | b, c | 問 2 | a, c, d | 問 3 | b |
| 問 4 | (1) c | (2) d | 問 5 | (1) a | (2) d |
| 問 6 | (1) e | (2) d | 問 7 | (1) d | (2) a |
| 問 8 | (1) a | (2) b | | | |

【総評】

大問構成・出題形式ともに概ね昨年度と同一。大問Ⅲで独立した小問として出題されていた文法正誤問題は、大問Ⅰの長文問題中の一部として出題された。とは言えいずれも初歩的なミスなので、2問とも確実に回収したいところ。記述式問題では昨年度に続き、日本語論述のみならず、本文の記述から筆者が示したいことを英語で論述するタイプの問いが1問出題された。また、大問Ⅱの自由英作文でも“a summary of the author’s opinion”を織り込むことが求められており、本文の正しい読解を前提とする英作文の出題というここ数年の性格を踏襲するものであった。しかし、本文のトピック自体は、同じく life expectancy に関する長文を予想問題として扱った YMS の直前最終講習を受けた諸君であれば決して読みづらいものではなかったはずで、比較的書きやすいテーマであっただろう。マーク式問題では、Choose ALL 型の問いが6問中4問も出題され、堅実に得点を得ることが難しくなった。一次通過ラインは、他科目との兼ね合いもあるが60%程度か。

昭和大学医学部〔Ⅱ期〕模試 2.20(木)

科目 英/数/化/生/物 申込締切 2月17日(月) 20:00
会場 東京/大阪/福岡

聖マリアンナ医科大学〔後期〕模試 2.23(日)

科目 英/数/化/生/物 申込締切 2月20日(木) 20:00
会場 東京/大阪/福岡

対象 高3生・高卒生対象 料金 6,600円(税別)



※内容は変更になる場合がございます。最新の情報はホームページよりご確認ください。↑

医大別直前講習会 受付中

後期・Ⅱ期

- 獨協医科大学
- 聖マリアンナ医科大学
- 日本大学
- 埼玉医科大学
- 昭和大学
- 日本医科大学



◆各講座の時間割・受講料・会場についてはHPでご確認ください。↑

本解答速報の内容に関するお問合せは


医学部専門予備校
YMS
heart of medicine
 ☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>
 東京都渋谷区代々木 1-37-14

医学部進学予備校 **メビオ** ☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校 **英進館メビオ** 福岡校 ☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

